

こんにちは  
市議員

# 井坂博文



連絡先／日本共産党北地区委員会：京都市北区紫野雲林院町78／電話432-3261／F A X 441-4968

## モニュメント切断に関して

### 委員会での検証を



9月5日の文化環境委員会。前回の委員会に引き続き市美術館モニユメント切断問題について議論を重ねた。

まず、前回委員会で党議員団が求めた、切断工事を行った松村組とモニユメントの製作者である富樫実氏、代理人の貴志カスケ氏・彫刻家協会の江藤かおる氏など作家側からの意見を聴取する場を設けること、について協議を行った。

共産党と京都党が賛成し、維新の会が富樫氏を限定して賛成したものの、自民・公明・民進が反対し、会派に持ち帰り引き続き協議することになった。

8月8・9日に強行された切断工事に関しては、確認書で合意していた「基壇ごと根元から掘り出す」工法についてなぜ松村組が基壇からの切断にしたのか、「切断は許さない」と言う作家側の意見を「工事することは了解された」と議員に伝えて工事を強行した、ことについて委員会として作家側の意見と意見を聞いて検証するとは議会の責任である。何とか実現させたい。

また、美術館が自らの手で作者の反対を押し切って切断・破壊したことについて副館長が前回委員会で「一番いい方法」「最良の選択」と答弁したことについての認識を質し、市民と製作者に対して謝罪すべきと求めたが、副館長は「破壊ではない」「強弁し、文化市民局長は「説明はするが、謝罪する気持ちはない」と開き直り。これでは今の京都市、美術館に文化や芸術を語る資格はない。

いま、議会の存在意義が問われている。モニユメント切断・破壊について検証を求める声が高まっている。議会はこの声に応えてその責務を果たすべきだ。



## 核兵器禁止条約に確信深まる

9日、「核兵器禁止条約とヒバクシャ国際署名」の学習会が開かれた。講師は7月の国連会議のトップで発言した被爆者で被団協事務局長長の藤森俊希さん。



藤森さんは、自らと家族の被爆体験とともに、その後の被爆者の運動、被団協結成（1956年）が「自らを救うとともに、人類の危機を救おう」と決意を誓い合い、「国に被爆者援護法を制定させ、充実させてきた被爆者の粘り強い運動と「ふたたび被爆者をつくるな」と核兵器の禁止と廃絶を求めてきたたかひを紹介され、国連での禁止条約交渉会議につながったことを強調された。

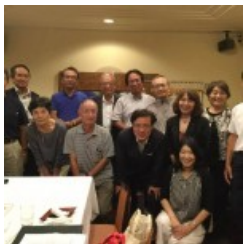


そして禁止条約採択の瞬間をリアルに話され、禁止条約の意義について前文にある「核兵器が完全に廃絶される必要がある」という核兵器がいかなる場合にも核兵器が決して再び使用されないことを保障する唯一の方法であり続けていることを認識し、「核兵器否定」の考えが根底にあることを指摘された。

また前文の「女性と男性の双方による平等、完全かつ効果的な参加は、持続可能な平和及び安全の促進と達成にとって不可欠な要素であることを認識し、女性の核軍備撤廃への効果的な参加の注目を強化することを約束し」と、女性の役割が注目され、それは条約採択をリードしたエレン・ホワイト議長と中満泉国連事務次長の活躍に示されていること、を紹介された。

話を聞いて、被爆者と被爆2世が果たすべき役割が鮮明になり、誤解を恐れずに言えば、「被爆2世でよかった」と思った。

学んだ後は、四条河原町で「平和を願う広島県人会」のみなさん、藤森さん（自身は



広島出身）井上哲士参院議員（広島出身）とともに、ヒバクシャ国際署名の宣伝行動をおこない、引き続き懇親会をおこない、美味しいビールやワインと料理を食べながら、禁止条約採択を喜び合い、交流した。

## 「再稼働許すな



9月8日の関電前行動に一月ぶりに参加。8月には他都市視察や盆休みなどで丸々金曜日が入り込んで、9月になってようやくカムバック。

それでも参加メンバーやコーラーの方々に暖かく迎えられて、早速コールした。大河原さんもコールしました。

原子力規制委員会が柏崎刈羽原発6・7号機の再稼働を狙う東京電力に対して、「原子力事業者として「適合性を否定する状況にない」と評価して、週明けにも新規基準に「適合」したという審査をまとめ、合格させようとしている。

福島原発事故の原因説明も究明もされず、事故も収束していない下で、東電に原発を動かす体制も能力もない！政府と東電と規制委員会という「原子カムラ」が一体となった再稼働の茶番を許してはならない。怒りを込めてコールした。

## この勢いで...

解散・総選挙間違いなし、という緊迫した情勢ではあらゆる事態を選挙勝利にむすびつけることが肝要かと.....

それがわたし的にはこれである。阪神フアンのみなさん、甲子園での初の胴上げ見せていただきありがとうございました。



日本一をめざしてがんばります。